

# 日本経営倫理学会会報

JAPAN SOCIETY FOR BUSINESS ETHICS STUDY

## 日本経営倫理学会「創立20周年記念特別シンポジウム」特集 「企業のグローバル社会責任と経営倫理」について

理事 河口洋徳 (経営倫理実践研究センター)

11月16日慶應義塾大学三田キャンパスに於いて、日本経営倫理学会「創立20周年記念特別シンポジウム」が開催された。同分野の権威であるカリフォルニア大学バークレイ校ハース・ビジネススクールのデービッド・ボーゲル教授をメインスピーカーに招聘し、「企業のグローバル社会責任と経営倫理」をメインテーマとして実施した。まず当学会会長の高橋浩夫白鷗大学教授より歓迎の辞を含め、「日本経営倫理学会創立20周年にあたって」と題したスピーチが行われた。続いてシンポジウム開催責任者でもあり、当学会副会長の梅津光弘慶應義塾大学准教授が「経営倫理学の過去と現在」と題しさまざまな記録や写真をちりばめ日本と世界の経営倫理学の変遷について講演された。この講演に続き当学会理事の高 巖 麗澤大学教授から「経営倫理研究は何を目指すのか」と題した講演があった。休憩をはさみ、メインスピーカー「デービッド・ボーゲル教授」からは「Global Social Responsibility and Business Ethics」と題しての熱気あふれる講演が約1時間行われた。会場との質疑応答はさらに熱気を帯び、質疑は1時間半にも及んだ。今回のシンポジウムには、学会員のほか多数の幅広い聴衆が参加、150人に迫る参加を得た。またシンポジウム終了後場所を同校舎内ザ・カフェテリアに移し、ボーゲル教授を囲んでの懇親パーティが50名の参加で行われた。以下当日の講演の一部を掲載させて頂く。



開会宣言をされる梅津副会長と会場の模様

### 日本経営倫理学会創立20周年にあたって

会長 高橋 浩夫



高橋浩夫会長（白鷗大学教授）

日本経営倫理学会は1993年に設立され、本年2013年は20周年にあたる。本学会は故・水谷雅一先生の経営倫理研究にける強い思いで設立された。先生は実務家（古河電気工業の役員）として活躍された後、研究者になった（神奈川大学教授、名誉教授）。実務家時代、1980年代にアメリカで耳にした“Business Ethics”が日本でも重要な研究課題であることを痛感し、研究者

として歩み始めた1990年、企業人、研究者、ジャーナリスト十数名を集めて「経営倫理を考える会」をつくり、1993年には日本経営倫理学会を立ち上げた。時はわが国経済のバブル崩壊後と重なり、産業界では次々と不祥事が起こり、日本企業の経営倫理が問われる要因となった。これと相まって本学会の研究活動も少しずつ注目されるようになり、会員数も拡大した。水谷先生は学会設立にとどまらず、三位一体構想と称して、実務家への啓発、普及の場である「経営倫理実践研究センター」（2009年より一般社団法人）の設立（1997年、現在は日本の代表企業127社が会員）、経営倫理の専門家を育成する「日本経営倫理士協会」（1997年設立、現在まで480名の「経営倫理士」育成）を創設された。これらの三位一体の活動は、現在も産学協同の視点からユニークで活発な研究を続けている。（※資料部分は省略）

# 日本企業の経営倫理

Business Ethics of Japanese Corporations  
Iwao Taka, Dr. (Professor at Reitaku University)  
JABES (2013.11.16)



高 巖理事(麗澤大学教授)

## I. ISO26000 の枠組みと関心の限定

### 1) 7つの中核主題

- ①組織統治
- ②人権(デューデリ、加担回避、差別及び社会的弱者など)
- ③労働慣行(労働条件、安全衛生、人材育成など)
- ④環境(汚染防止、持続可能な資源利用、気候変動への対応など)
- ⑤公正な事業慣行(汚職防止、公正な競争、バリューチェーンなど)
- ⑥消費者課題(消費者安全、公正な販促・適正表示、持続可能な消費など)
- ⑦コミュニティへの参画およびコミュニティの発展(雇用創出など)

### 2) 2つの中核主題という観点より、日本企業の経営倫理を整理

- ①消費者課題: リコール隠し、回収の遅れ、食中毒、食品・食材偽装など
- ②公正な事業慣行: 独占禁止法、ディスクロージャー法制など

## II. 国内における経営倫理上の特徴と課題

### 1) 1980年代まで

- ①政府による事前調整型行政が中心
- ②市場による調整機能は補助的
- ③企業行動は、結果を重視

### 2) 1990年代~2000年代以降

- ①事後チェック型行政へとシフト  
小さな政府と事後チェック機能の矛盾  
矛盾解消を狙い、内部統制に関する法制整備
- ②市場による調整機能が強化  
投資家の構成と意識の変化、ディスクロージャーの徹底
- ③4重のサンクション
- ④企業行動は、結果とプロセスの両者を重視

### 3) 経営倫理の実践を促してきた背景やドライバー

①消費者や社会による信頼を維持・改善すること

②不都合な情報も、迅速かつ正確に開示すること

## III. 海外における経営倫理上の特徴と課題

### 1) 1990年代まで

- ①基本的に「同心円的な発想」で行動  
世界は成果をあげる戦場、日本は評価を受ける基地、日本は成果をあげる戦場、企業は評価を受ける基地
- ②進出先との良好な関係を維持するため、地域貢献にも力を入れた。ただし、ビジネスのスタンスは「郷に入っては郷に従え」

### 2) 2000年以降

- ①海外拠点の一層の拡充と海外売上増大
- ②事業規模と社内管理体制が噛み合わない  
「海外は国内とは別」との発想が依然として強い
- ③公正な事業慣行に関する意識は決して高くない  
国内における業界団体の存在、「和」を重んずる日本的な発想

### 3) 経営倫理の実践を促し始めた背景やドライバー

- ①反競争的行為に対する司法当局の取り締まりが強化されてきたこと、カルテル行為(自動車部品カルテル、銀行間取引金利の操作など)
- ②海外腐敗行為に対する司法当局の取り締まりが強化されてきたこと 外国公務員贈賄(ナイジェリア事件、中国医薬品業界贈収賄事件など)
- ③リスク志向のマネジメントを徹底しなければならないこと 現場のリスクを理解し、合理的にリスクをコントロールすること グローバル・レベルでのリスクに焦点を絞った専門部署の設置・強化

## Global Corporate Responsibility And Business Ethics

A presentation to JABES by Professor David Vogel

Haas School of Business University of California, Berkeley

<Presentation Title>

Public expectations of business are increasing

Why are public expectations of firms increasing?

The Global Economic Picture

Challenges to Globalization

Alternative Definitions of CSR

- Corporate Scandal Response
- Corporate Scared Response
- Corporate Survival Responsibility

CSR & Business Ethics

Ethical Principles & the Challenges of Defining CSR



Professor David Vogel

質疑応答(通訳梅津副会長)



A universal ethical principle: The Golden Rule

Key CSR terms  
Corporate Social Responsibility  
Business Norms are Changing  
U.N. Global Compact  
The Growth of Ethical Investment Funds and Indices with a Social Orientation  
Conclusions

- CSR is a moving target: the agenda of CSR keeps changing
- Firms are becoming more responsible on some dimensions
- Firms are becoming less responsible on other dimensions
- Many critical global problems are beyond the ability of firms to address on their own. They require the support and cooperation of both governments and non-governmental organizations.

CSR & Business Ethics in Japan  
The Adoption of CSR in Japan  
In embracing CSR Japanese firms have both strengths and weaknesses  
What has the growth of global CSR and business ethics accomplished?



会場での有志記念撮影

## 第 136 回理事会（2013 年 7 月 20 日）議事録(要旨)

議題 1、新入退会者承認の件

[新入会員] 正会員：4 名[退会者] 正会員：2 名  
会員数は 473 名

議題 2、新体制における委員会について

委員会の詳細と各理事の担当部門が事務局松本常任理事より発表された。（詳細は前号に掲載）

議題 3、平成 25 年度研究発表大会・総会・シンポジウム報告（6 月 15 日・16 日に白鷗大学）大会参加者 124 名、懇親会参加者 72 名で盛会であった。

議題 4、論文募集 - CFP 方式による論文募集 -  
本年度より学会誌掲載に向けて CFP 方式による論文募集を行なうことになった。6 月 21 日に日本経営倫

理学会会長名でその詳細を発表した。発表の「(5) 注及び参考文献」に関し採用方式について意見交換が行なわれたほか、募集は論文のみについて行ない学会誌掲載にあたっての論文・論説の区別は論文審査委員会が決定することなどが確認された。

議題 5、第 6 回経営倫理シンポジウムについて  
（本会報にて実施報告掲載のため詳細は省略）

議題 6、来年度の研究発表大会開催場所について  
2014 年度研究発表大会は 6 月中旬に青山学院大学で開催できる見込みである。との中間報告があった。

議題 7、その他 新任の今井理事・井上理事・山本監事より自己紹介と挨拶があった。

## 第 137 回理事会（2013 年 9 月 28 日）議事録(要旨)

議題 1、新入退会者承認の件

[新入会員] 正会員：2 名 学生会員：1 名 計 3 名  
[退会者] 正会員：4 名 学生会員：2 名 計 6 名

会員数は 470 名

議題 2、名誉会員、シニアアドバイザー委嘱の件

会則第 16 条に基き、山脇徹前理事をシニアアドバイザーに推薦することとした。

議題 3、第 6 回経営倫理（創立 20 周年記念）シンポジウムについて

シンポジウムの統一テーマを「企業のグローバル社会責任と経営倫理」と決定し、会費等が決定された。寄付金・補助金に加え会員篤志家より 100,000 円の寄付申込みが表明された。また高橋会長より参加者増大への協力要請があった。

議題 4、論文審査・学会誌第 21 号の編集について

事務局より学会誌 21 号に掲載する論文審査ならびに学会誌 21 号編集方針について説明が行なわれた。

大会発表者による掲載候補論文に加え CFP 方式による応募論文も審査の対象になること、論文審査ならびに編集方針について異論なく了承された。高橋会長より査読依頼された場合は是非協力頂きたいとの要望が伝えられた。

議題 5、次年度の研究発表大会の開催とテーマの件

第 22 回研究発表大会は 2014 年 6 月青山学院大学で開催の予定。大会の統一テーマを「プロフェッション教育と経営倫理」とすることとした。

議題 6、その他

1) 日・タイ経営倫理関係情報

2014 年 11 月 1 日(土)～3 日(月)にタイとの交流を計画中であると高橋会長より報告があった。

2) SBE 参加者報告

去る 8 月 8 日～11 日に米国で開催された SBE（米国経営倫理学会）の年次大会には日本から当学会出見世理事を含めて 9 名の参加があったと西藤常任理事

より報告があった。参加者 188 名の内、日本は第 4 イラデルフィアで開催される予定である。  
位の参加者数であった。2014 年年次大会は 8 月にフ

## 第22回研究発表大会のお知らせと発表者公募の件

会長 高橋 浩夫

2014年度研究発表大会は6月中旬の土日に2014年度の総会と併せて青山学院大学（東京・表参道）にて開催いたします。統一論題は「プロフェッション教育と経営倫理」に決定いたしました。プロフェッションとは、かつて聖職者・医師・弁護士の三大職種を指すものでしたが、ミラーソンは、プロフェッションの定義として、①体系的理論、②訓練、③権威、④倫理、⑤奉仕の方向づけ、⑥団体という諸要件を見出しました。現代の企業社会においては、企業経営の中心的な担い手となる経営者、これをサポートする会計、法律等の専門家に対して倫理的な規律も強く求められます。こうしたプロフェッションを育成するのが専門職大学院であり、深い学識と卓越した能力を培った人材による経営倫理の向上が期待されてきました。しかし、企業社会と教育機関との相互理解は不十分であり、経営倫理の向上に向けられた教育機関における取り組みには、まだまだ多くの課題が残されています。経営倫理を高揚し、企業社会を現実に変革していくために、専門職大学院を含むプロフェッション教育はどのように貢献できるのか、日本と海外の違い、現状の問題点から改革の方向性に至るまで等、数多くの論点が想定されます。厳しい状況にある専門職大学院も多い昨今ですが、企業社会、教育現場等、多方面から経営倫理の向上のために活発な議論を期待しています。

研究発表者の選考は、本年度と同様、公募と部会推薦の二本立てとし、合計25名程度の発表を予定しております。発表を希望される方は下記要領に従ってご応募ください（参照：【別添1】論文規程）。

### 【募集概要】

1. 応募資格：本学会会員。ただし本学会が発表を依頼する場合は除く。
  2. 応募および要旨・予稿提出締切日：2014年3月14日（金曜日）（14日消印有効）
- \*要旨および予稿は電子データ（CD、FD等）と出力原稿4部を提出してください。

### 1) 発表区分

「統一論題」か「自由論題」か、希望の発表区分を明記ください。（但し大会実行委員会判断で決定）

### 2) 発表要旨：

- ① 連絡先、発表題名、800字程度の「発表要旨」を添えてお申込みください。
- ② 問題意識、発表テーマを取り上げた理由、論点、結論と主張などの内容を簡潔に述べてください。
- ③ 論文審査委員会による予稿原稿審査のため4部提出してください。

3) 予稿原稿：「予稿」はそのままコピーして『予稿集』として編集します。

3. 応募先 〒102-0083 東京都千代田区麹町4-5-4 桜井ビル3F

日本経営倫理学会 第22回研究発表大会実行委員会

◇発表希望者多数の場合は、実行委員会で調整させていただきますので、あらかじめご承知おきください。

## 平成 25 年度年会費納入のお願い

先般の年次総会で決議されました学会諸活動を推進する財源としての年会費につき納入をお願いいたします。

◇年会費：正会員・1万円 学生・3千円 法人(上場)・5万円 法人(非上場)・3万円

◇年会費支払い有無の確認は事務局(以下)まで、お問合わせください。

◇年会費自動振替のお手続きがお済みでない各位は切替をお願いいたします。

### 【学会連絡先：東京事務局】

住所：〒102-0083

東京都千代田区麹町4-5-4 桜井ビル3階

電話/FAX：03-3221-1477 / 03-3221-1478

E-mail：info@jabes1993.org

担当：古山常任理事（広報）

松本常任理事（総務）

発行：日本経営倫理学会

### 編集後記

日本経営倫理学会創立20周年記念特別シンポジウムが会員各位のご協力で無事終了致しました。たくさんの参加者を動員頂いた方、資金協力頂いた企業、個人の皆様から御礼を申し上げます。おりしも特定秘密保護法案が、強行採決されました。政治家の社会的責任についても今後の学習課題なのではないでしょうか？政治家倫理力があるとすれば、強行採決は倫理的にはどうなるのか、学習が必要なのかもしれませんね！？

（編集担当/河口洋徳）